

<K-code のワークショップについて>役に立ったこと、もっと聞きたかったこと、ご感想、ご質問など、ご自由にお書きください

新しい指導方法ですが、kinetic memory を使ったり形を見せて認識させたりなど、第二言語習得の研究で効果的だと認められていることを組み合わせている点が素晴らしいです。非常にわかりやすく実践しやすい方法を示してくださったので、文字表記が難しいと思っている学習者に紹介したいと思いました。斜めの線は、私自身は意識していませんでしたが、確かにカタカナだけだと気づきました。カタカナと漢字は共通点が多いですが、大きな違いとして把握しておく指導に役に立つと思いました。

以前から関心があった K-code、学習サイトができたことを知ることができて、指導の映像や実際の板書を拝見できて、大変参考になり、よかったです。ぜひ漢字や初級の授業で実践してみたいと思いました。

基本線6個だけで説明できる、という部分が驚きでした。自分のクラスでも使ってみようと思います。最後の添削方法などの部分をもっと聞きたかったです。

初級の学生の漢字学習をやさしくする、すばらしい試みだと思いました。

シンプルな漢字の教え方をもう少し詳しくネットで見てみようと思います。

初めて知りました！確かに初級学習者にとって、ハードルが一気に下がりますね。日本語学校での実際の授業にどうやって取り入れていくか、考えたいです。

初級クラスの漢字の書き方ストラテジーとして、簡単に「縦、横、右払い、点」のような指導はしたことがありますが、ここまで丁寧に扱ったことはありません。中級、上級になってもカタカナがきちんと書けない学生もいます。初級のうちにしっかりと基礎を覚えることは大切だと感じました。

公開されている動画より、具体的実践例などをもっとお聞きしたかったです。

大学ではすでに日本語を勉強してきた学生が多いので、難しいかもしれませんが日本語学校では導入できるかなと思いました。

初級の学生に漢字を学んでもらう時に私も K-code を使ってみたいです。

k-code というのを初めて知りました。非漢字圏の学生の苦労が少しでも解消されるなら、ぜひ取り入れてみたいと思いました。

後で、動画を見ます。

漢字圏でない学生には、効果的かと思いました。

所々で、音声が届かなくなったりして残念でした。が、6つの線で漢字は説明できるというところに、目からうろこでした。しかし「横」を「H」となぜ変えたのか、よこたてみぎひだりチェック、エルからアルファベットを使うやり方に変えたのは学習者によるのでしょうか。その説明があったのか、ちょうど音声が届かなかったからなのか、伺いたかったです。統一した方が私はやりやすいかなと思いました。でもこのやり方は私も試してみたいと正直に思いました。

専用サイト、参考にしたいと思います。

アプリも使いやすくなっていて、Kコードの有効性が改めて理解できました。

時間が短くて残念でした。もっと詳しく聞きたかったです。

お時間の兼ね合いでK-codeの概要と紹介しかうかがえませんでした。駆け足すぎて、スライドもゆっくり見られなかったのが、残念です。また、日本語でよこ、たて、、とやったあとに、またアルファベットを用いることで2方式があるとなると、学習者も(教師側も)混乱しそうに思いました。英語圏ではないと、アルファベットの読み方もさまざまかと思いました。せっかく日本語なので、たて、よこ、の日本語方式だけでやるのは可能なのか、そういった話を伺いたかったです。

漢字を各パーツに分けると、6種類に分けられる、というお話は「なるほど」と思いました。

初級の漢字練習の際に、K-codeを活用できそうです。日本語学校ではチームティーチングであり、あまり使わないカタカナが苦手が学習者が多いこともあるので、カタカナを用いた方法を取り入れたいと考えております。また、中学校の国際教室では取り出し授業を行っております。対象の生徒達は日本語ゼロの生徒が多いのですが、カタカナも同時に覚えてほしいので、やはりカタカナを用いた方法を取り入れたいと思っております。のちほど動画を拝見して、もっとK-codeについて知りたいと思います。勉強になりました。ありがとうございました。

K-codeHやZのお話あたりからちょっとついていけなくなっていました。事前に資料提供をいただいていたなら良かったと思いました。

非漢字圏の学生に、K-codeを紹介したいと思いました。

また最初の方のスライドに、「QRコード、またはチャットからダウンロード。。。｣となっていたのですが、QRコードを読み込むことができませんでした。(チャットの方にはなかったようです)もしK-codeに関する資料でしたら、QRコードをご送付いただけますと幸いです。

お話を伺い、非漢字圏の学習者の漢字習得に役に立ちそうだという期待感でいっぱいになりました。次の機会に早速取り入れて効果のほどを見てみたいと思います。先生のやり方をもう少し詳しく知りたかったのですが、サイトがあるので、まずはそちら見ながらやってみようと思います。教えていただきありがとうございました。

外国人学習者にとって非常に親しみやすく、わかりやすい学習ツールであると感じ、大変勉強になりました。継承日本語教育における文字学習にも応用できるのではないかと思います。興味深く拝聴い

たしました。今後、海外の継承日本語教育への展開についてもお考えがあれば、ぜひお聞かせいただければ幸いです。

こういう教え方があったとわかりました。

主に専門学校で教えていますが、日本語学校で勉強してきたはずですが、書き順めちゃめちゃ、語形も資格に訴えて覚えた字なので、基本ができていない学生が多いです。特に目立つのが「ん」が「h」になっている学生は多数います。そのような学生たちの指導に、4月の初めの時期にこれで指導するといいと思いました。

海外で幼児に文字を教える際は、掛け声をクラスみんなでかけて 体の動きを楽しみながら学ぶ、リズムにのって、気持ちもって伝えます。モチベがあがらないと続かないので。。。唱えて覚える漢字の手法で毎回の多量の学習漢字に取り組んでいます。補習校の生徒には普段日本語を見かけないだけに辛い修行になります。カタカナの基礎ががつつりできていると自ら漢字の組み立てに気づいてその構成を自分から探そうとしてくれます。幼児から低学年の目線な考え方を常に模索していると日本語を学ぼうとする大人にも通じる点があると思いました。きれいなスライドで気持ちよく学べそうです。早速サイトを開いてみます。ありがとうございました。

たったの6種の線と、4つのサブルールで全漢字の書き方を説明するなんて画期的だなと思うました！早速、関連の論文等をダウンロードし、詳しく読ませていただきます 😊

K-code を習得すれば、書く方も、添削する方もかなりのストレス軽減になると思いました。今回は時間がなかったですが、実際の添削例ももう少し聞きたかったです。(プリントの角の数など)

【役に立ったこと】

学習者の負担が減るこの方法を知れただけでも感謝しております。とても夢があると思いました！支援する側にとっても、「共通言語」がある、ということが本当に有効だと思いました。

【もっと聞きたかったこと】

K-code はどのレベルまで重点的に使うのか、中級者にも活用していくのか、実際の授業展開とあわせて、ぜひもっと知りたいと思いました。

ゼロ初級の学習者、しかも非漢字圏の学習者にとって、K-Code が非常に有効であることがよくわかりました。なかなかゼロ初級の学習者に教える機会がないので、新鮮なご講演でした。

6 パターンでカタカナと漢字が書けるとなれば、書くことが苦手な学習者の助けになりそうな気がしました。体を使うのも、とても良いと思いました。座学の合間に...

教える方も教わる方も、向き不向きがあるのではないかと思います。システムチックで大変おもしろいのですが、私は自分で教えている間に混乱しそうです。学生は、みな、ちゃんとしてきますか？または、理系の学生は得意など、傾向があれば教えてください。

動画で学生になぞらせるとき、「ひだり」は左手で、「みぎ」は右手でさせていましたが、実際に書く時は「利き手」なので、「利き手」だけでしたほうがいいのでは？と思いました。少なくとも、私は苦手だなあ、と。体で覚える前にアタフタしそうです。

また、「小さい(small)」がつかつかないかは、非常に難しいと思いました。例えば、「人」の「みぎ」と「ン」の「みぎ」は明らかに長さが違い、「ン」については「点」に近いので。「人」は「ひだり」に比べて短いから small ということなのだと思いますが、「八」と「人」を比べた時、学生たちは迷わないのかな？と思いました。

「川」についても、先生の指示ミスによりアンバランスとのお話でしたが、1番左と右は長い「たて」で、真ん中だけ small でいいのではないかな？そんなにアンバランス？と思いました。と、書いてから「川」の1番左は「たて」ではなく「ひだり」？でしたか？「たて」で「はらい」が入ると「ひだり」との差別化が難しいですね。うーん、私は悩んでしまいます。

しかしながら、左から右、上から下という基本的な筆順を教えるには、大変有効だと思いました。確かに、筆順の正しい字はバランスもよく、無駄もなく、より美しく書けると思います。最近は日本人でも、すごい書き順で書きますので、しっかり覚えてほしいなあとも思いますよね。

一方で、スマホやパソコンに入力することが主流となりつつある現代においては、極論ですが、形を把握するだけでもいいのではないかなとも思っています。「漢字を書く」ことはなくなるにしても、「書く機会が減っている」ことは確かで、字を「認識して選ぶ」時代に突入しているのも事実だからです。もちろん、大学入試などでは必要ですが、入学したあとのレポートなどで手書きはほとんどありません。授業の振り返りなどを、最後の何分かで書かせる先生もまだいらっしゃいますけれど、コロナ禍で進んだIT化の波の影響は大きいです。社会人になれば、企画書や報告書などを手書きすることはないでしょう。今後はAIありきの社会でどうなっていくのか、新しい課題が次々と生まれてきますね。すでに私は直面して悩み中です。

ただ、書くことが脳に与える刺激になるとか、その有効性も取り沙汰され、海外の学校ではタブレットからノートへという国もあると聞きます。世の中は、便利になると昔に戻る(昔がよかったとなる)傾向がありますね。そのせめぎ合いの中で、いろいろな考えや手法が生み出されていくのだなあ、Kコードのお話を聞きながら、改めて感じました。

元々留学生が漢字を習得するために考え出したというのも興味深かったです。とてもシンプルでわかりやすいと思いました。今受け持っているクラスは、とても熱心なのですが、文字が読みにくい学生が多いのが気になっていました。紹介してみたいと思いました。ただ、学校全体での導入ではありませんし、時間が取れません。紹介してやってみたいと思った人が自主的にやってもらうのかなあと思います。ホームページがしっかりしていて、自習もできそうな気がしました。

3つのルールがあまりよくわからなかったのですが、1大小 2はね 3交差点の数でいいでしょう

か。カタカナの斜めはカタカナ特別ルール？ それから学のはねの前は、Zになるのは、Iとの区別としてはわかるのですが、少し方向が下向きにする、みたいな説明をするのでしょうか？
特に時間を取らず、自習してもらおう場合の注意点、予め伝えておいた方がいいことなどあれば教えていただければうれしいです。

楽しくて役に立つ、漢字の学び方をご教授いただきました。実践してみます。

K code を初めて知りました。楽しそうです。使ってみたいですが、こちらの習得が大変だと思いました。

学生の立場にたって一度考えてみる必要性を実感した

タイの中等教育機関の生徒にいいんじゃないかと思いました。もう少し私自身、Web サイトを勉強します。

参加したかったんですが、予定がありざんねできませんでした。今回 URL 変更で参加できなかった方へのご対応で動画が公開さればうれしいです。

カタカナを学習することから初めて漢字に結び付けるという発想が、とても面白く斬新でした。カタカナも6つの工程に絞るとわかりやすいと思いました。

漢字のお話は面白かったです。

K-code を初めて知りました。絵を描くようにひらがなを書く学生には、とても分かりやすい方法だと勉強になりました。

前にもお話を伺っていて、実際に悲観事件の学習者に使ってみたことがあります。が、私が言うだけだと力量と知識不足で、その先になかなか先に進まなかったのですが、日本語版や、サイトもできていたんですね。今後活用できそうです。すばらしいです。

K-code の、複雑な漢字をたった6種類の線でシンプルに教える、というのは目から鱗で、研修前に動画を見てから大変楽しみにしていました。

教える場面だけでなく、質問・説明・添削もやり易く、分かりやすくなるという点も、更に目から鱗でした。できれば K-code で教えるにあたってのコツや注意点などをもう少し知れる機会がありましたら嬉しいです。

ことばの意味を考えて展開する授業は楽しいですね。時間の配分が難しいです。

勤務校でも取り入れてほしいと強く思いました。書き順のルールがあやふやなままだと、画数の多い漢字をどこから書けばいいのかかわからず、漢字を覚えるのが嫌になってしまう学生さんが多いように感じています。K-code はとてもシンプルで、漢字へのハードルを下げられるとてもよいものだと思います。

残念なことに都合で少し早めに退会させていただきましたが、体の動きで字形を覚えることはとても興味深かったです。

早速大学同僚内で共有しました。4月からのコースで使う予定です。

漢字の新しい教え方を知ることができ、たいへん有益な機会でした。ただ、時間の関係とは思いますが、動画を見るにとどまったのは残念でした。